

部門横断的な連携による経営改善

～医療経営士にできること～

渡邊 輝夫

(鴨川市立国保病院 企画経営戦略室 主任技師)

医療経営士2級
認定登録番号：
21210025090009

【目的】

本報告では、これまで各部門が個別に抱えていた課題を共有し、部門横断的な連携を通じて解決され、その結果、医業収益向上に繋がったので報告する。また、この経験が医療経営士としての自身の関わり方を再考する貴重な機会となったので報告する。

【実施方法】

月次経営会議において、各部門の課題整理と情報共有を行い、医療経営士として、部門間の連携を円滑にするための調整役を行った。

【実施期間】

2022年11月～2025年3月 現在も継続中

【考察・結果】

これまでの病院経営会議では、経営指標の報告が中心で、部門間の連携や共通目標の設定が不十分であり、そのため、各部門が個別の目標に注力し、病院全体の経営目標に対する貢献度が不明瞭になるという課題があった。特に以下の点が明確な課題として認識された。一つ目は部門間の情報共有不足である。各部門が抱える課題や進捗状況が他部門に伝わりにくく、横断的な問題解決が困難であった。二つ目として目標の個別最適化であり、各部門の目標が病院全体の目標と必ずしも連動せず、全体として経営改善に繋がりにくい状況であった。

そこで、上記の課題を解決するため、経営会議では以下の取り組みを強化した。

第一に、各部門の目標を、収益改善、医療の質向

上、患者満足度向上といった病院全体の経営目標に紐づける形で再設定することで、部門ごとの活動が病院全体の成長に直結するよう意識を統一した。

次に、部門横断的な課題の特定と共有を行った。各部門が個別に抱える課題をオープンに共有する場を設け、他部門との連携によって解決可能な課題を特定することで、組織全体の課題解決能力を高めることを目指した。

さらに、具体的なKPI(重要業績評価指標)の共有を行った。これにより、設定した各目標に対する進捗状況を定量的に把握できるようにした。

最後に、定期的な進捗確認とフィードバックを行った。設定した目標とKPIに対して定期的に進捗を確認し、必要に応じて軌道修正を行うことで、PDCAサイクルを効果的に回し、持続的な改善を目指している。

これらの横断的な部門間連携を円滑に進める上で、医療経営士が最適な役割を担えると強く感じた。医療経営士は、臨床的な視点と経営的な視点を兼ね備え、各部門の役割を最大限に活かしながら病院運営に貢献できる役割があると感じた。



◎わたなべ・てるお

2003年、鴨川市立国保病院リハビリテーション部に理学療法士として入職し、外来、入院、訪問リハビリを行ってきた。2023年4月より、病院長の命で病院企画経営戦略室に所属となる。